

時代認識と石川の特性



(1) 時代認識

石川県では、平成8年に策定した新長期構想において、わが県を取り巻く社会経済情勢の変化を3つの視点(“地球時代”“成熟時代”“地方創造時代”)から整理しました。今回、これまでの変化を踏まえるとともに、これからの進展を見据えて、個々の内容を見直しました。

● 地球時代(地球規模の動き)



1 地球環境問題の深刻化、顕在化

・地球温暖化は最も重要な環境問題の一つであり、これに伴う気候変動は世界各地で顕在化しつつあります。温暖化の主たる原因とされる温室効果ガスの削減を目指し、自然環境の保全・再生や排出削減努力を積み重ねていくことが求められています。

2 社会・経済活動のボーダレス化

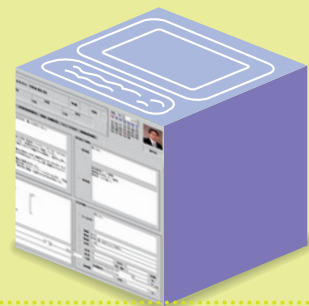
・人や物、情報、資金が世界的に自由に移動するようになり、特にアジアとの相互依存関係が強くなりました。一方、これとともに、安全面に関しては、これまで想定されていなかった問題を身近に感じるようになっていきます。

3 広域的な交通ネットワークの整備

・航空、鉄道及び道路の広域的なネットワークの整備が一層進み、国内外のつながりや県境を越えた地域間の広域的なつながりが強化され、人や物の交流が益々活発化しています。

4 IT社会の実現

・ITの普及が進んでおり、今後も日常生活や社会経済活動に、一層大きな影響を与える可能性があります。一方で、情報格差の是正やセキュリティの確保等が重要な課題となっています。



● 成熟時代(日本全体の社会の変化)



1 人口減少時代の到来

・少子高齢化の流れは続いており、2010年代初頭頃から人口減少・超高齢化が本格化すると予測されており、今後は、健康で教養豊かに長寿を楽しめる、豊かな社会を築くことが期待されます。

2 多様な働き方・社会参画が実現する社会の到来

・今後とも、活力ある社会を持続するためには、年齢や性別によらず、意志や能力に応じた多様な働き方や社会参画ができ、人材を最大限に活かすことが求められています。

3 多様な価値観を持つ個人が共存する社会の到来

・価値観の多様化が進み、個人主義的な風潮が強まっています。各人は、社会の一員としての使命や役割を自覚し実践することが大切です。

● 地方創造時代(地方を取り巻く環境の変化)



1 自己決定・自己責任による自律した地域経営

・地方分権の流れが加速しており、各地方自治体が自らの創意工夫と努力で魅力ある地域づくりを進めることが益々重要になっています。

2 持続可能な財政基盤の構築

・国・地方とも、財政状況が悪化し、地方自治体の破綻も現実の事態になるなど、厳しい状況に直面しています。持続的な財政を維持するためには、歳入・歳出の一体改革を進めていくことが必要となっています。

3 文化の磁力の向上(ソフト・パワーの充実)

・地域の文化的資産に更に磨きをかけ、文化的な土壌を育み、国内外にその魅力を伝えていくことが、地域を活性化していく上で重要になっています。

4 多様な主体による連携と協働

・NPOや住民団体をはじめとする意欲と能力を備えた担い手が登場するなど、官と民の役割分担を変えていく新しい動きが見られます。今後こうした多様な主体と連携・協働しながら、公共サービスの展開や地域づくりを行うことが期待されます。

5 人口減少に対応した地域産業政策の展開

・人口減少時代において、地域経済の持続的発展のためには、成長著しい海外市場も視野に入れながら、域外市場産業と域内市場産業との好循環を継続させていくことが求められます。地域や個々の企業の個性を活かした取組みは益々重要になっています。

→
※詳細は、
資料編 時代認識(詳細)
P.158~169
を参照

(2)石川の特性

今後の地域づくりにおいては、石川県の個性とも言える“強み”を活かしつつ、地理的な条件や社会の変化から生じた“課題”を克服していくことが重要だと考えています。

強み

- 1 環日本海を中心に位置し、3大都市圏それぞれから影響がある一方で、加賀百万石の時代から引き継がれた独自の文化圏、北陸経済圏を形成しています。
- 2 白山や能登の海岸などの良好な自然環境や伝統と創造に育まれた文化土壌などが、我々の生活を潤し、また観光資源となっています。
- 3 高等教育機関(大学、短大、高专)が集積しています。
- 4 1県2空港の実現や、北陸新幹線の金沢開業の決定、県土ダブルラダー構想の推進による県土を貫く太い背骨の形成など、広域交通基盤が整いつつあります。

地域に 関係すること

課題

- 1 人口減少・高齢化が、全国よりも早いペースで進行しています。
- 2 中心市街地の空洞化が進行しています。
- 3 能登の過疎化が一層進み、コミュニティのあり方、災害時の安全の確保、必要な社会サービスの提供などに問題が生じることが懸念されます。



産業に 関係すること

強み

- 1 特定の分野で高いシェアを誇るニッチトップ企業が多く、建設・工作機械などの産業が集積しており、モノづくりの基盤が充実しています。
- 2 情報サービス産業も集積しており、人口当たりの事業所数は全国3位、従業員数は全国4位、売上高は全国5位と充実しています。
- 3 意欲的な中小企業が多いことも特長で、こうした企業によるチャレンジ精神溢れる取組みが期待されます。
- 4 多種多様な農産物・水産物に恵まれているとともに独自の食文化が受け継がれ、観光面での魅力にもなっています。

課題

- 1 県内産業は全体としては堅調に推移していますが、産業の成長力の鈍化や伝統産業の停滞などの課題が散見されます。
- 2 農林水産業の経営基盤が弱く、従事者の高齢化、後継者不足が進行しています。また、手入れが行き届かない森林の増加や水産資源の減少などの課題があります。



暮らしに 関係すること

強み

- 1 広域防災中枢拠点が整備されるとともに、災害時の避難先や輸送ルートが整いつつあります。
- 2 多様性に富んだ豊かな自然環境が保全されています。
- 3 保育所普及率が全国1位など、働きながら子育てしやすい環境が整備されています。女性就業率は全国4位となっています。

課題

- 1 地震や浸水による被害、土砂災害が発生しており、また過疎化が進行している豪雪地帯では雪による家屋倒壊や人的被害が生じています。
- 2 能登北部での医師不足が深刻になっています。
- 3 リサイクル率が全国平均よりも低いなど、環境問題への取組みについては、まだ改善の余地があります。



→
※詳細は、
資料編 石川の特性(詳細)
P.170~179
を参照